

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 46 号	氏名	手 嶋 無 限
学位審査委員		主 査	中 嶋 幹 郎
		副 査	佐 々 木 均
		副 査	中 村 順 三
		副 査	中 島 憲 一 郎
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、prednisolone (PLS) の drug delivery system (DDS) の開発に関して、新たに脂溶性誘導体 palmitoyl prednisolone (Pal-PLS) を合成し、リポソーム製剤化することで薬物の体内動態制御を検討したものであり、研究目的として妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>Pal-PLS の物理化学的性質は確認されている。リポソーム製剤は、封入薬物の化学修飾とキャリアーの製剤修飾を系統的に組み合わせて調製されている。リポソーム製剤化による薬物の保持能は、限外濾過法とゲル濾過法により検討されている。リポソーム製剤化による薬物の体内動態は、ラットへ静脈内投与後の薬物血中濃度と組織濃度により検討されている。この一連の研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記の検討により、リポソーム製剤化による PLS の放出制御と体内動態制御には、キャリアーであるリポソームの製剤修飾に加え、封入する薬物の化学修飾 (Pal-PLS) が重要であることを証明した。これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように、本論文は PLS のリポソームを用いた DDS の開発に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士 (臨床薬学) の学位に値するものと判断した。</p>			